

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

空き家、貿易収支、個人金融資産 (気になる3データ)

今週29日の新聞を見ていたら、「空き家率13.1%に」という記事が目飛び込んできました。「空き家は相当増えているな」と感じていましたが、全国レベルで13%というその高さには驚きました。下表は総務省公表データの一部を転記したものです(単位:万)。

	2008年	2003年	増減率
総住宅数	5,759	5,389	6.9%
内空き家	756	659	14.6%
空き家率	13.1%	12.2%	0.9%
総世帯数	4,999	4,725	5.8%

世帯数の増加に伴って住宅の数が増えているのが見てとれますが、一方で小家族化が更に進み、遂には誰も住まなくなった住宅がグンと増加しているのも分かります。100軒あれば13軒が空き家!です。これって「衝撃的データ」と思いませんか。私にはそう思えました。

「衝撃的データ」と云えば、私が気にしているデータが他に2つあります。貿易収支と個人金融資産の2つです。

まず、ここ4年余の貿易収支(出所:財務省)を見て下さい(単位:兆円)。

	輸出	輸入	収支額
05年	62.6	52.2	10.3
06年	71.6	62.1	9.4
07年	79.7	67.4	12.3
08年	77.3	73.3	4.0
09年1-5月	18.1	18.1	0

ご存知の方も多いと思いますが、最近、貿易収支が赤字(輸入>輸出)となる月が増えています。私も、だからといって今直ちに日本が貿易赤字国になるとは思いませんが、貿易立国を自認してきた日本にとって貿易赤字が何を意味するかが理解されているかどうかが気になります。上表は、日本の貿易赤字転落が全くあり得ない話ではなくなったことを示しているように思うのです。貿易収支が恒常的に赤字になった時、戦後経済は大きく転換するような気がします。

次に、個人金融資産の残高推移も気になるところです。日銀の資金循環資料から簡単な推移表を作成してみました(単位:兆円)。

	3月末	9月末
2006年	1,516	1,511
2007年	1,543	1,545
2008年	1,464	1,450
2009年	1,410	

一寸前までは「個人金融資産1,500兆円云々」というのが日本の家計の蓄積の厚さを語る際の枕詞でしたが、昨年3月、あっさり1,500兆円を割ってしまいました。また復活するかと思いきや、昨年9月以降の株価暴落が追い討ちをかけ今年3月には1,410兆円まで落ち込んでいます。上表では分かりませんが、現実には個人金融資産は07年半ばから減り始めているのです。何が起きているのでしょうか。よく分かりませんが、家計が過去の蓄積の取り崩しを始めている可能性があります。としたら、分厚い個人金融資産に頼った我が国の金融政策の先行きは危ういと云わなければなりません。

日本がGDPの1.7倍という先進国で例を見ない巨額国債を、長期金利上昇を招かずに発行できるのも、国債発行残高を大幅に上回る個人金融資産が金融セクターに滞留し、金融セクターが国債をせっせと買っているからです。その意味で、個人金融資産と国債は対のようになっていると思います。個人金融資産がこの先一直線で減るとは私も思いませんが、無貯蓄世帯や高齢者の急増等を鑑みると、貯蓄を取り崩して生活に廻す国民が増えているような気がしてなりません。個人金融資産の残高が気になる所以です。

以上、3つの「衝撃的」データを取り上げました。いずれも我が国が衰微過程に入っていることを示すデータだと思えます。それなのにリーダー達は「あげます」と叫び、選ぶ者達は「あれも、これも」とねだっています。昔、限られた米100俵を、困窮している家臣団には我慢を強い、全てを教育に投じたという話は有名です。そんな話はもう夢物語りなのでしょうか。

ご案内

来週8月4日(火)夜10時、テレビ東京系列「ガイアの夜明け」という番組で、本レポートで2度ほど取り上げた「旅籠屋」の取組みが報道されます。テーマは「ホテル業界に新風を巻き起こす“新ホテル”の挑戦」です。ご高覧方ご案内いたします。

《複製・転載等にご連絡下さい》

URL: http://www.hi-ho.ne.jp/smc_toyo/

発行日: 2009.8.1 第590号

TEL. 0438-53-6092 FAX. 0438-53-6096

Email: smc_toyo@hi-ho.ne.jp